

週報

感染性胃腸炎(腸管病原菌)検出

センター受託検査分より

検出菌 ウイルス	平成 29年																												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月 ~3日	9月 ~10日	9月 ~17日	9月 ~24日	10月 ~1日	10月 ~8日	10月 ~15日	10月 ~22日	10月 ~29日	11月 ~5日	11月 ~12日	11月 ~19日
カンピロバクター	153	116	189	214	150	101	118	66	84	61	68	80	122	83	118	142	87	22	18	33	25	44	48	25	16	28	18	27 (28)	32
病原性大腸菌	167	150	157	240	182	166	227	180	147	107	105	89	113	64	135	206	161	26	22	42	12	18	31	25	14	24	18	20 (21)	16
腸管出血性大腸菌	0	0	1	3	1	0	3	0	1	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0
サルモネラ	8	12	4	19	21	12	16	4	6	0	1	7	11	10	13	18	29	4	4	0	1	3	2	3	2	2	4	8	4
黄色ブドウ球菌 MSSA	14	19	32	14	24	23	27	8	15	6	11	12	15	9	21	32	17	3	2	14	5	6	6	2	7	3	4	1	3
黄色ブドウ球菌 MRSA	21	20	27	24	19	19	18	14	20	16	19	13	17	15	23	27	16	4	5	7	6	4	1	5	6	3	3	4	5
腸炎ヒブリオ	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
その他	3	3	1	9	10	9	4	2	2	0	2	1	3	0	5	9	11	1	2	1	1	2	5	1	1	5	2	0	0
ロタウイルス	24	29	1	0	0	0	1	0	1	1	0	1	6	6	3	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
アデノウイルス	0	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0
ノロウイルス	9	2	2	5	0	0	0	0	21	7	4	8	6	11	13	8	2	0	1	0	0	2	0	1	0	0	0	0	2

* () は前回集計後に新たに検出された件数を含めて表示しています。

広島県感染症発生動向週報

平成29年第46週(11月13日~11月19日)

2 一類-二類-三類-四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

類別	報告数	疾患名	計	西部	西部東	東部	北部	広島市	呉市	福山市	
一類	0	発生なし	0								
二類	8	結核	8	1	2	3			1	1	
三類	1	腸管出血性大腸菌感染症	1							1	
四類	4	つつが虫病	3	1	1			1			
		レジオネラ症	1			1					
五類全数	7	アメーバ赤痢	1							1	
		カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1							1	
		劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1								1
		後天性免疫不全症候群	2					2			
		侵襲性肺炎球菌感染症	1			1					
		梅毒	1			1					

注) 西部…大竹市、廿日市市、府中町、海田町、熊野町、坂町、安芸高田市、安芸太田町、北広島町、江田島市
東部…三原市、尾道市、世羅町、府中市、神石高原町
西部東…竹原市、東広島市、大崎上島町
北部…三次市、庄原市

● 詳しい流行状況は、広島県感染症・疾病管理センターのホームページをご覧ください。 <http://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/hcdc/>

広島県感染症情報センター 提供

定点・全数把握疾患週報【広島市】(第46週 11/13～11/19)

広島市感染症対策協議会/広島市感染症情報センター 提供

1. インフルエンザ

定点医療機関から40人(定点当たり1.08人、迅速診断キット:A型陽性37人、B型陽性3人)の報告があり、前週と比べて約5.7倍に急増しました。流行開始の目安である定点当たり1.0人を上回り、インフルエンザが流行入りしたと考えられます。

また、11月21日(第47週)に、広島市で今シーズン初めてのインフルエンザ様疾患による学級閉鎖が報告されています(中区の中学校)。

例年、インフルエンザは流行が始まると急激に患者が増加しますので、流水と石けんによる手洗いや咳エチケットを励行し、感染拡大防止に努めましょう。

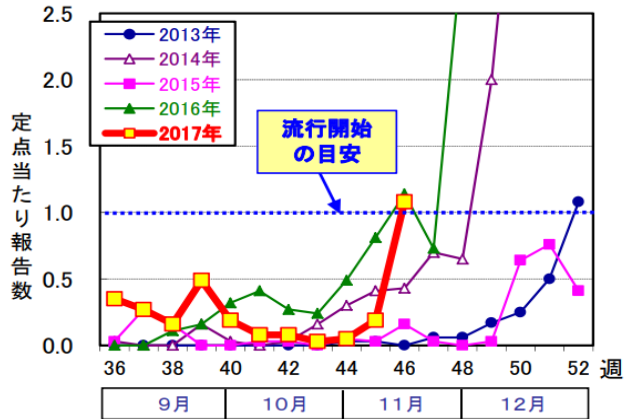
2. 感染性胃腸炎

定点当たり4.42人の報告があり、前週と比べてやや増加しました。

例年この時期からノロウイルスを原因とする感染性胃腸炎が急増するため、注意が必要です。

手洗いの励行や便・吐物の適切な処理など感染予防対策を徹底しましょう。

インフルエンザの流行状況



■定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(注) 過去5年間	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(注) 過去5年間	発生記号
小児科	インフルエンザ	40	1.08	0.36	↑	小児科 眼科 基幹	流行性耳下腺炎	7	0.29	0.81	↑
	咽頭結膜熱	14	0.58	0.54	→		RSウイルス感染症	15	0.63	0.83	→
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	66	2.75	2.24	→		急性出血性結膜炎	-	-	0.03	
	感染性胃腸炎	106	4.42	11.27	→		流行性角結膜炎	2	0.25	0.80	
	水痘	8	0.33	0.88	→		細菌性髄膜炎	-	-	0.03	
	手足口病	32	1.33	0.53	→		無菌性髄膜炎	1	0.14	0.11	
	伝染性紅斑	-	-	0.24			マイコプラズマ肺炎	-	-	0.34	
	突発性発しん	8	0.33	0.46			クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-	
	百日咳	1	0.04	0.07			感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	
ヘルパンギーナ	-	-	0.08								

急増減 ↑ ↓ 前週と比較しておおむね1:2以上の増減

増減 ↗ ↘ 前週と比較しておおむね1:1.5~2の増減

微増減 ↖ ↙ 前週と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減

横ばい ⇐ ⇨ ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	37
小児科定点数	24
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注) 過去5年間の同時期平均(定点当たり)

■全数把握感染症報告状況

類型	疾患名	報告数	累計	備考
4	つつが虫病	1	2	男性(70歳代)
5	後天性免疫不全症候群	2	8	男性(10歳代)・感染者、男性(20歳代)・感染者

■新たに判明した病原体検出状況

(検査: 広島市衛生研究所)

診断名	発熱(発熱)	主症状	年齢	性別	発症年月日	検査材料	検出病原体
インフルエンザ	発熱(37.5)		15	女	2017/10/16	鼻汁	ライノウイルス
感染性胃腸炎	発熱(39.0)	下痢	0	男	2017/10/11	糞便	サルモネラ・スタンレー
ヘルパンギーナ	発熱(38.8)	口内炎 頭痛	3	男	2017/10/14	咽頭拭い液	コクサッキーウイルスA5型
無菌性髄膜炎	発熱(39.0)	嘔吐 嘔き気 項部硬直 頭痛	13	男	2017/10/04	髄液	エコーウイルス25型
マイコプラズマ肺炎	発熱(39.6)	紅斑 気管支炎 鼻炎	1	女	2017/10/07	咽頭拭い液	ライノウイルス ヒトヘルペスウイルス7型
その他の呼吸器疾患	発熱(39.7)	気管支炎 肝機能障害	0	女	2017/10/02	咽頭拭い液	RSウイルス
その他の呼吸器疾患		気管支炎 鼻炎	3	男	2017/10/08	鼻汁	ライノウイルス
その他の呼吸器疾患		気管支炎	5	男	2017/10/08	鼻汁	ライノウイルス

* 感染症発生動向調査に基づく病原体定点搬入分のみ掲載